

祈りと感謝

山間地の暮らし、心打つ風景に出逢う

昔 からの暮らしの知恵を次世代につなぎ、山間地の魅力を未来に残す、日本らしい地域景観や暮らしの豊かさをいかに未来に残していくかを、常日頃、考えている自分に気がつく。どうしたら伝えられ、残していくか？

先人から受け継いだ豊かな大地とそれに寄り添う暮らしの価値をいかに現代、生きている人々に伝えていき、価値観を共有できるか？

実はこのことこそが、「みちくさ」のテーマなのである。

そして、大げさかもしれないが、今日、日本が取り組まなければならない緊急の課題は、「地方創生」ではなく、この価値観の共有なのではないかと、私は思っている。

さて一方、世界的に問題なのは、人口が爆発的に増加していることである。今世紀半ばの2050年には、今よりも20億人増の90億人に達すると見られている。そして、近年、どの産業分野においても地球環境を破壊しない持続可能な開発が求められており、農業による

食料の確保も地球規模で大きな課題となっている。

国連のFAOは、これまで持続的に続いてきた環境に調和して行われてきた農業システムの素晴らしさに着眼し、世界農業遺産「GIAHS」の認定を開始した。

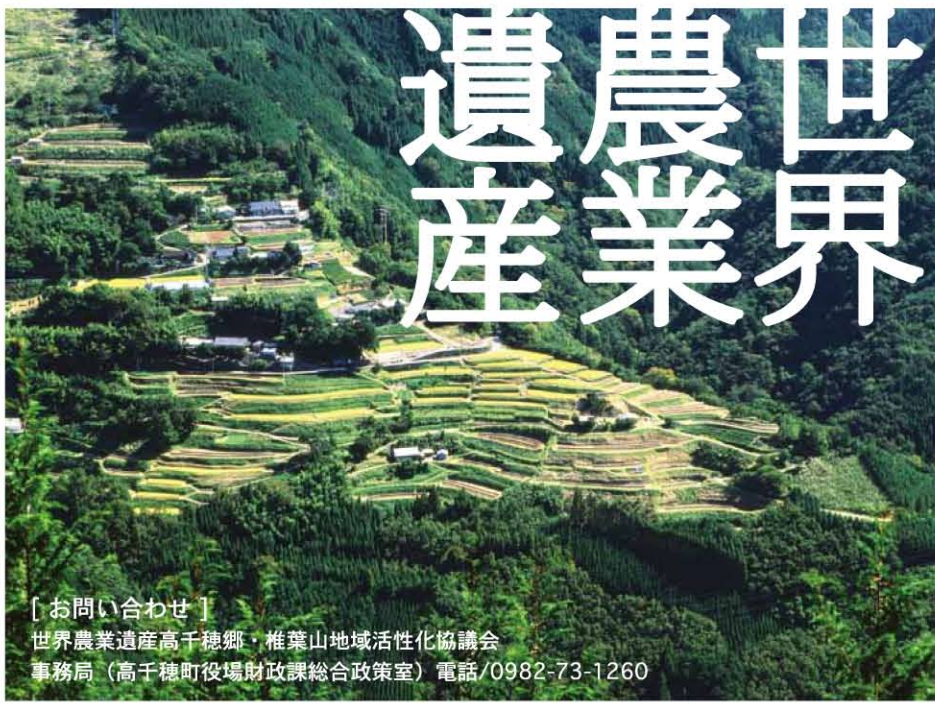
2011年のことである。次世代に継承すべき重要な伝統農法や農業文化を有しながら持続的な発展

を遂げている地域の貴重さを説き、これまで世界15ヶ国36地域を認定してきた。日本では8地域が認定されている。

九州では2014年に阿蘇地域と国東半島・宇佐地域の二ヶ所が認定され、続いて昨年2015年12月には、「高千穂郷・椎葉山地域」の山間地農林業複合システム」に継承すべき重要な伝統農法や農業文化を有しながら持続的な発展



日之影の夕日



【お問い合わせ】
世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会
事務局（高千穂町役場財政課総合政策室）電話/0982-73-1260

高千穂町

神楽息づく神話の里

古来より神話が息づく高千穂町には、各集落に神楽が残っている。神楽を通じて、年に一度の収穫に感謝し、祈ることで、地域の人々との絆を確かめながら、コミュニティの形成、維持をしてきた。

高千穂の夜神楽は、昭和53年に国の重要無形民俗文化財に指定され、神楽の季節以外に一般の人でも楽しめるように、毎晩、高千穂神社境内の神楽殿で二三番の神楽の中から代表的な4番「手力雄の舞」「細女の舞」「戸取の舞」「御神体の舞」を公開している。

場所／高千穂神社神楽殿
時間／20時より約1時間
（19時より受付）
料 金／700円（1人）



日之影町

森林セラピー®基地と石垣町、日之影町は、森林セラピー®基地に認定されており、癒し効果が科学的に検証された森林浴を楽しむことができる。コース内の見所、戸川地区には、見事なほどに膨大な石垣が棚田を守るように続いている。「石垣の村」と呼ばれるその景観は「日本の棚田百選」も選定されており、最も古い石垣は嘉永から安政年間に築かれたも

釜炒り茶とツーリズムの里霧が多い標高約600m程の高原の町、五ヶ瀬町には、古来から伝承される釜炒り茶の技法が残っている。農林水産大臣賞を受賞している茶農家も多く、農林水産祭

縄文時代から続く焼畑日本民俗学発祥の地であり、最後の秘境と呼ばれる椎葉村には、



Prayer and thanks

Globally Important Agricultural Heritage Systems

高千穂郷・椎葉山は、1000m級の険しい山々に囲まれた山間地だが、厳しい環境下で人々は、森林からの恵みを巧みに活用し、保全しながら、他に類を見ない複合的な農林業システムを築き上げてきた。

縄文時代から伝わる「焼畑」に見る循環型農業、木材生産に必要な杉材、椎茸の原木となる落葉広葉樹林、照葉樹林から成る「モザイク林」、総延長500kmにおよぶ「山腹水路」と1800haもの「棚田」、「神楽」に見られるコミュニティなど、高千穂郷・椎葉山地域には、世界に誇るべき固有の山間地農林業複合システムが代々受け継がれ、森林理想郷の伝統農林業と文化を未来へとつむいでいる。

これは先人からの知恵の結果であり、日本の豊かさの根源である。だからこそ住んでいる人たちは、今一度、その価値を再認識し、海外の方々を含めた多くの方々の価値観を変えるような地域固有の魅力を発信していかなければならないと信じている。

福永采子

愛で人と人、地域と地域を結ぶ
（移アロード）代表
地域交流誌「みちくさ」編集長

1950年頃まで各地で行われていた焼畑農法が今も残っている。縄文時代から続く世界に冠たる伝統的農法は、山に伝わる循環型農法として、注目を浴びている。

急峻な山の斜面に棚田が続く「仙人の棚田」は限られた土地を最大限に活用した先人たちの知恵の証。春から夏にかけては、青々しい若葉と新緑が映え、雲海が出る季節には、天空に浮かんでいるように見え、まるで仙人が住んでいるように思われる。



諸塚村

モザイク林と

世界FSC®森林認証環境に配慮し、地域社会の利益にかなう持続可能な森林管理を推進していることを認証するためにFSC®森林認証を日本で初めて村ぐるみで取得した諸塚村。針葉樹や広葉樹林などパッチワーク状に広がる特徴的な「モザイク林」は、森と共生する村の象徴。特産品である椎茸は確かな品質を持ち、食材や加工品として評価が高い。

旬の食材を使った料理と爽やかなワインをどうぞ!

記念日には五ヶ瀬ワインを

「ナイアガラ」使用
スパークリングワイン
五ヶ瀬 樹樹
GOKASE JUJU

甘さ控えめのスッキリとした仕上がり
750ml▶
2,592円
(税込)

「キャンベルアーリー」使用
スパークリングワイン
五ヶ瀬 涼香
GOKASE RYOKA

辛口でシャープな味わいは、魚料理との相性抜群
750ml▶
2,754円
(税込)

「シャルドネ」使用
スパークリングワイン
五ヶ瀬 桜舞
GOKASE OBU

程良い酸味で口当たり爽快
750ml▶
2,592円
(税込)

※ご注文は五ヶ瀬ワイナリーオンラインショップへ
五ヶ瀬ワイン Q 検索

住所/宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町大字薬野内4847-1
電話/0982-73-5477 (代) 営業/9:00~17:00 定休日/不定休

おばちゃん達の笑顔とお届け

眼下に阿蘇五岳を望む、景勝地としても人気がある五ヶ瀬町大字薬野内地区。そこで活動する婦人加工グループ「バーバクラブ」では、素材な味わいで添加物を一切使っていないかきんとうを作っている。ドーナツやいも、お茶味に加え、あおさや生薑など、バリエーションも豊富。町内の物産館やワイナリーで販売しているの、ぜひおばちゃん達の笑顔に会いにきてほしい。

(株) バーバクラブ
■住所/宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町大字薬野内4805-4
■電話/0982-82-0050 ■営業/9:00~18:00
■定休日/日曜日、お盆、正月

日之影の美味が堪能できる道の駅

国道218号、青雲橋の袂にある道の駅青雲橋。1階売店には、日之影町の特産品がずらりと並び、2階レストランでは地元の食材を使った料理が味わえる。人気の「チキン南蛮定食」は柔らかな、鶏もも肉を使用。手作りのタルタルソースがよくあう。「クリソフ」は日之影町特産の栗をたっぷり使った絶品スイーツで今の季節にピッタリ!

国産218号、青雲橋の袂にある道の駅青雲橋。1階売店には、日之影町の特産品がずらりと並び、2階レストランでは地元の食材を使った料理が味わえる。人気の「チキン南蛮定食」は柔らかな、鶏もも肉を使用。手作りのタルタルソースがよくあう。「クリソフ」は日之影町特産の栗をたっぷり使った絶品スイーツで今の季節にピッタリ!

「チキン南蛮定食」800円
「クリソフ」350円

■住所/宮崎県西臼杵郡日之影町大字七折8705-12 ■電話/0982-87-2491
■営業/売店8:00~18:30 レストラン10:00~16:00 ■定休日/年中無休

「福永編集長コラム」 地方創生に問う

私がお会いした8年前頃、鹿児島県大隅地域振興局が主催するツーリズムの会に参加され、イチョウ園とそこから臨む錦江湾があまりに美しいので、垂水に人を呼ぶために皆に伝え、無料開放したいと熱い思いを口にされた始まった頃であった。実に無心であった。我が「みちくさ」の発信も、人と人を愛でつなぐ愛の道「アイロード」の活動も同じである。日々の単純だが、地を這い、汗まみれになり集めた、熱心な活動の情報や努力の積み重ねの小さな結果、これこそが地域の財産である。私は、地域にある、そこにはしかない価値を育てていく啓蒙活動こそを「ツーリズム」と呼んでいる。地域に何を残し、何を育てていくかという価値観を、地方創生ビジネスではなく、ごくごく自然に人々の中に宿らせていくような地域との出合いの旅や文章を書き続けていきたい。大切なものに光を当てながら必死に活動する人々をそっと応援し、長い年月をかけて地域が歩んできた「地域固有の価値や魅力」を守っていきたい。ツーリズムは「体験観光」と訳していい。人が守るべきものがあるのかを自然に学んでいく「人と暮らしを結んでいく活動」学びの旅」だと信じている。

昨年、念願が叶い「みやざきツーリズム協議会」の立ち上げを担う事務局をさせていただいた（本誌P14）。また、今年からは「おおす農山漁村ツーリズム事業」の事務局として、今回、「おおす暮らし体験お試し券」を発行させていただいている（本誌P19・21と裏表紙）。

感謝の気持ちがいっぱいある。「みちくさ」は、補助金で発行してきた誌面ではない。人々の思いで発行してきたものの。地域に芽生えた、そこに暮らし人々々々を愛する人々たちの小さな想いを育てたい。思いで協賛を出して下さる広告主たちの、地域を思う願いで発行している。彼らと語りあひ、その方々の思いを形にする誌面づくりのため、日々、書き続けてきた。また16年だが、爾々とふれ合いコンセプトで続けてきた、大きな森を豊かな海を、そこで暮らしてきた奥ニッポンの暮らしの知恵を後世に残していく一助になりたいと、心から願っている。